

資料1 被害直後のワンストップ支援の実際 (医療機関版)

病院で関係者が出会う

的確で迅速な聴き取りと説明

消毒、けがの治療、性感染検査、薬物検査のための尿・血液採取、妊娠検査、診断書、緊急避妊ピル、妊娠、中絶、カウンセリング

証拠採取

刑事
男女

被害者

支援
員

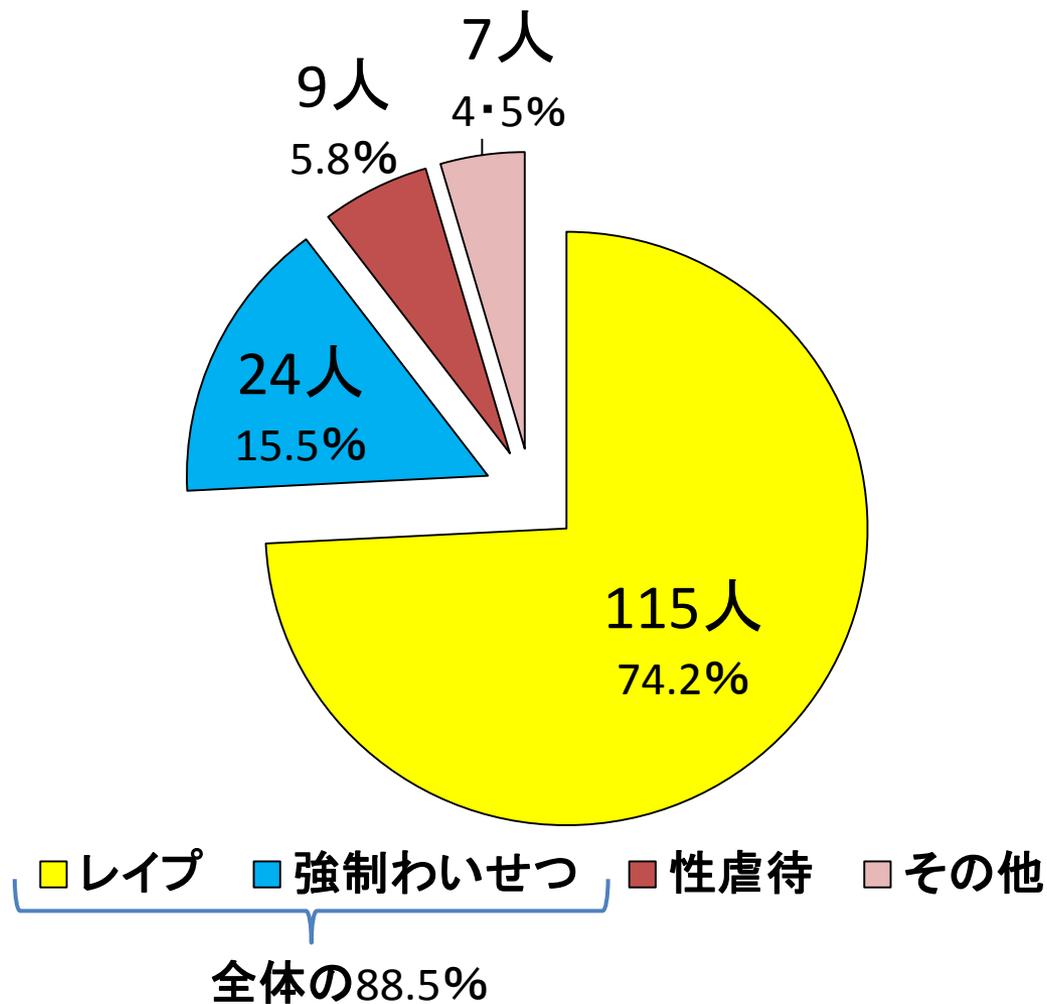
看護
師

アドボケイト

- 支援員であることを伝え、予約を確認して待つ
- 関係者が到着したら挨拶する
- **問診室**があれば被害者と入りねぎらいとエンパワメント、被害の概要を聴き取り、診察と捜査について丁寧に説明する
- **相談シート**を作成し、医師を呼んで被害の概要を説明し、診察室に入る
- 診察が終わり**再診日**を決める

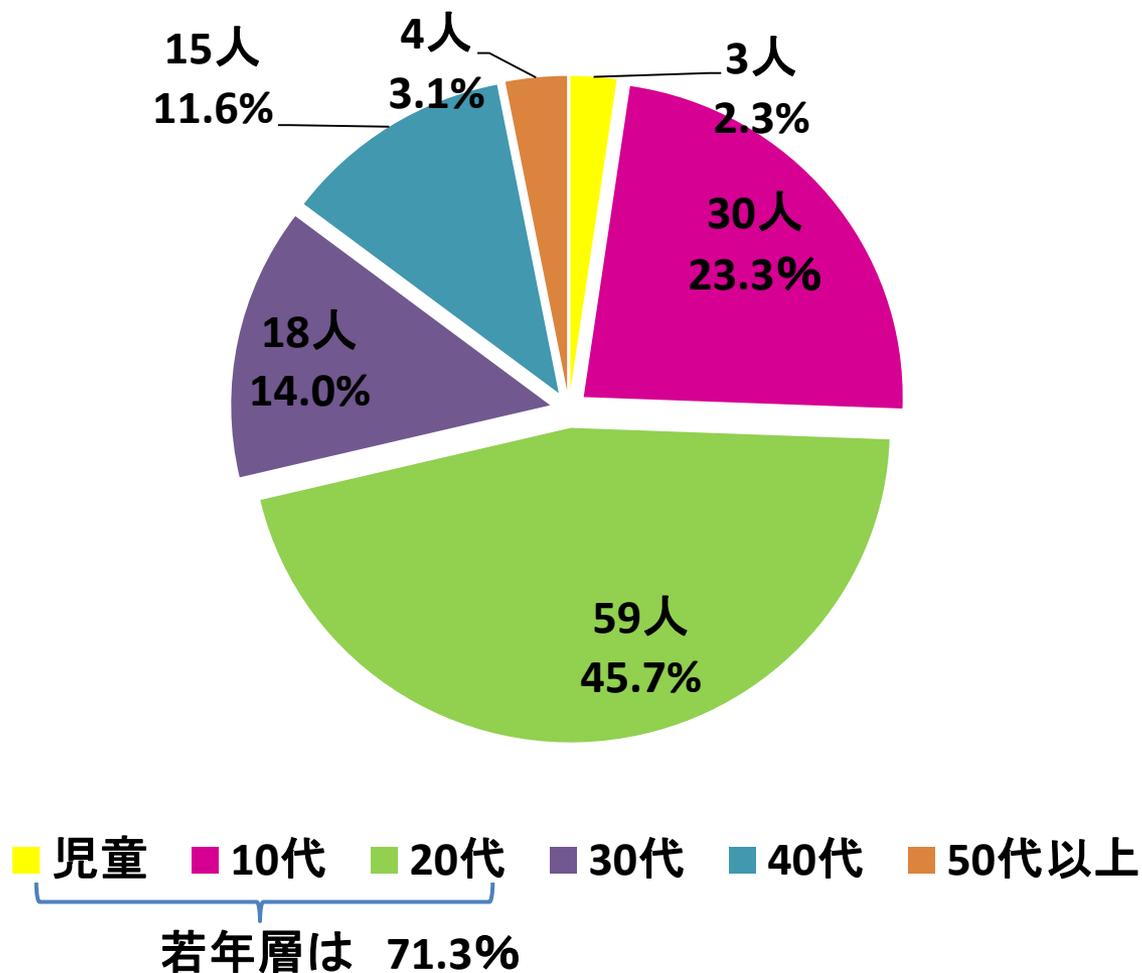
資料2

面接・同行支援155人の相談内容別実人数

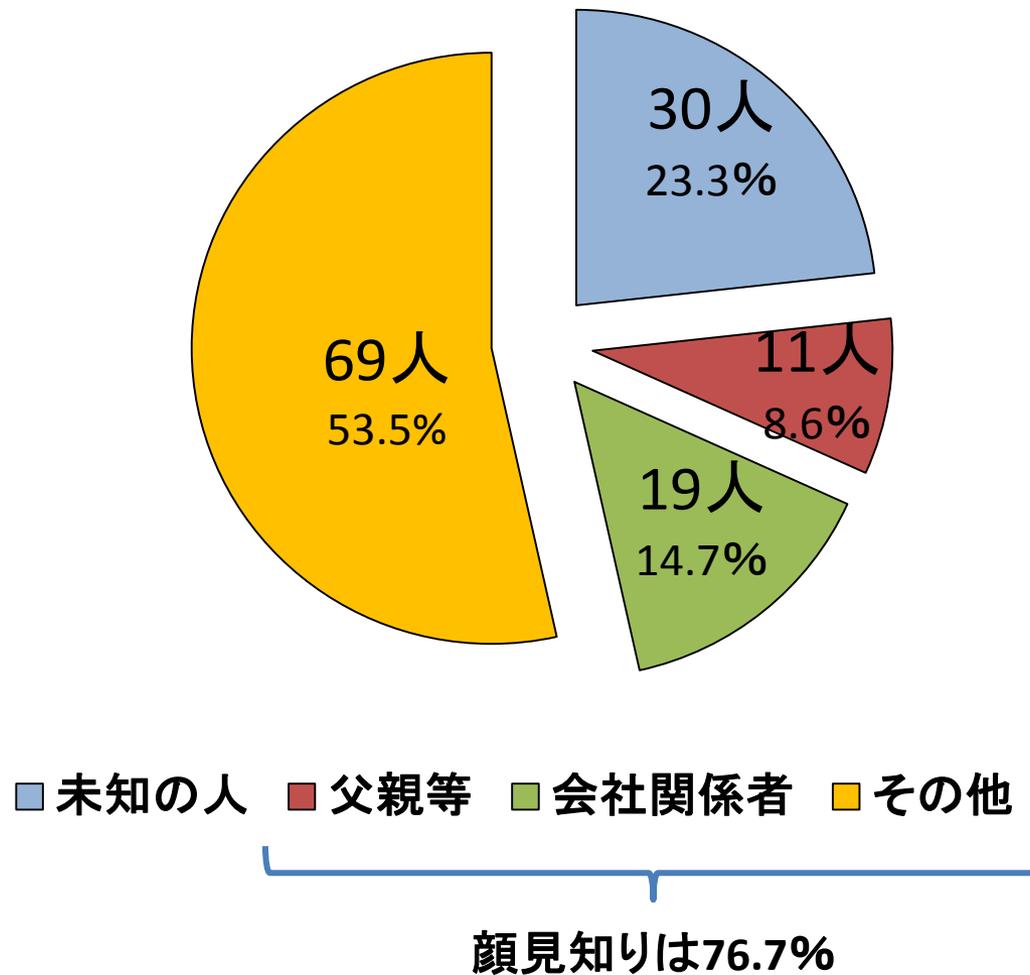


資料3

129人(面接相談のみを除く)の年齢別人数



資料4 129人の加害者の特徴別人数

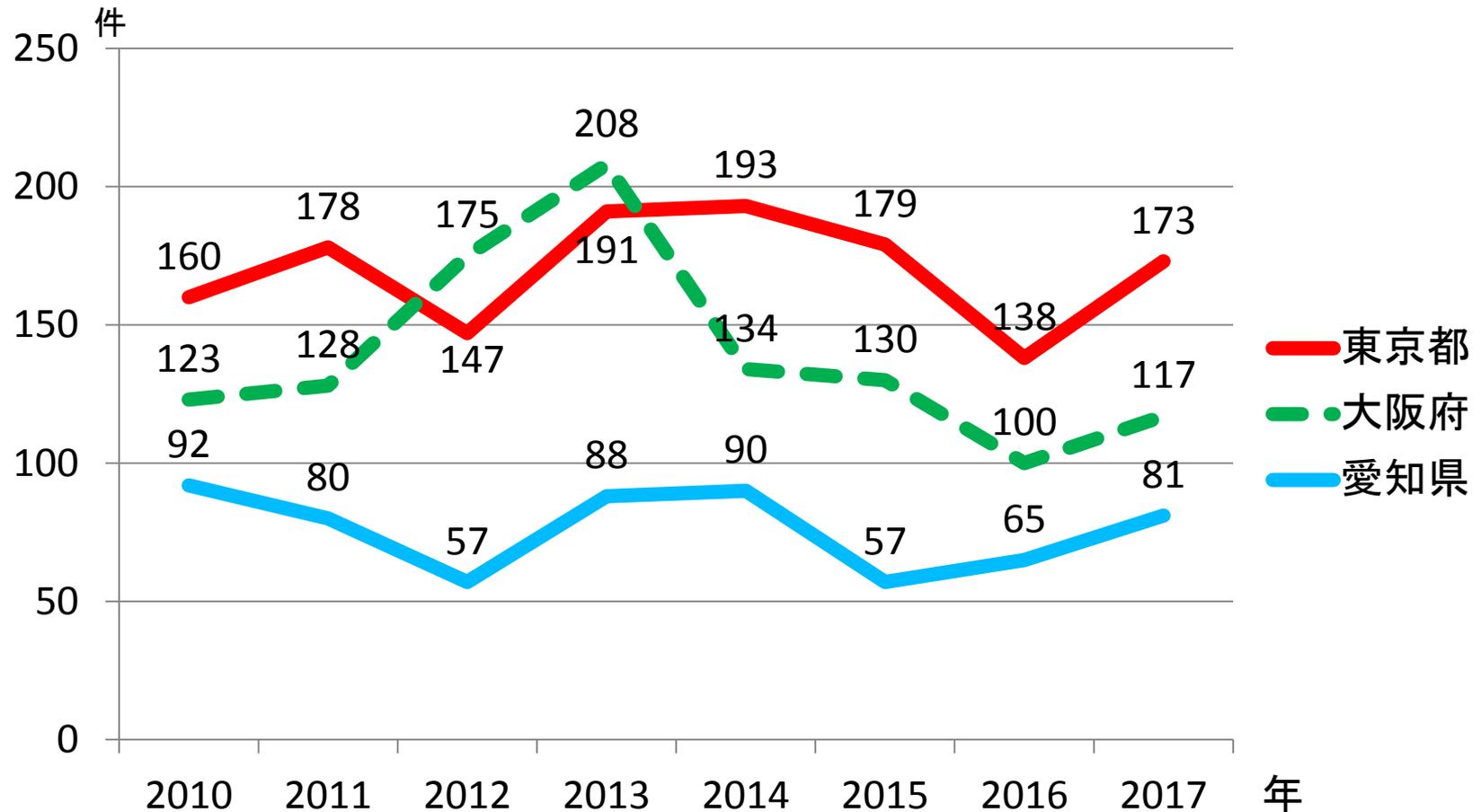


資料5 警察署申告件数

	児童	10代	20代	30代	40代	50代 以上	計
支援人数	3	30	59	18	15	4	129
警察申告 件数	3	14	33	11	7	1	69 53.5%

資料6

性犯罪認知件数の動向：強制性交等罪認知件数 東京都・大阪府・愛知県で全国の30.6%を占める



注 警察庁の統計による。

資料7 無理矢理に性交等された被害経験 (2017年版)

	男性(1569人)	女性(1807人)	総数(3376人)
1人からあった	1.3%	6.1%	3.9%
2人以上からあった	0.2%	1.7%	1.0%
被害経験あり人数	23人(1.5%)	141人(7.8%)	164人(4.9%)
相談した	10(43.5%)	54(38.3%)	64(39.0%)
相談しなかった	9(39.1%)	83(58.9%)	92(56.1%)
無回答	4(17.4%)	4(2.8%)	8(4.9%)
被害経験全くない	92.2%	84.8%	88.2%
無回答	6.4%	7.4%	6.9%

- * 約20人に1人、女性の約13人に1人は異性から無理やり性交等された経験がある。
- * 約4人に1人(25%)は「友人・知人」に相談している。
- * 警察には3.7%、ワンストップ支援センターには0.6%が相談。

注 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査報告書」より作成